

ワクチン接種後に豚熱が発生した農場から考える 今後の発生予防対策

令和3年7月7日に第15回拡大豚熱疫学調査チームによる検討会が開催され、以下の8項目について提言がまとめられました。これは、ワクチン接種農場での豚熱の続発を受け、発生農場で対策が不十分であったこと・対策する上で重要だと考えられるポイントをまとめたものです。自分の農場では（従業員も含めて）できていない所はないか、今一度確認をしましょう。

①衛生管理区域への野生動物の侵入防止対策及び人や車両の

進入時の衛生対策

- ・防護柵に穴や隙間はないか
 - ・車両消毒の前に汚れは落としているか、動力噴霧器などで汚れを落としながら消毒できているか
- （タイヤの溝等に土等がついたままだと、十分な消毒効果を得られません）

②作業着、手袋及び長靴の交換並びに交差汚染防止

- ・発生農場では、手指の消毒・衣服と靴の交換が不十分であった
- ・交換するだけでなく、交換の前後で動線が交差しないように壁や段差、箱など物理的障害を設ける

重要!

③ワクチン接種農場における免疫を獲得していない豚群への対応

- ・ワクチン接種前の離乳舎での発生が多い。離乳舎については他の豚舎よりも飼養衛生管理を一層徹底する
- ・肥育豚でも感染が確認されているため、肥育舎においても綿密な臨床観察を行う
- ・ばらつきを小さくするために、分割授乳などにより、しっかり初乳を全頭に飲ませる

④消毒液の選択及び交換頻度

- ・発生農場では消毒薬の種類や使用濃度に対する配慮が不十分であった
- ・踏み込み消毒槽などは定期的に交換。また、汚れたら都度交換

⑤農場内作業動線及び作業手順

- ・発生農場では、移動の時に未消毒の通路やケージを使用していた
- ・移動等の時は、豚が触れるもの（通路・ケージ・車両等）は消毒してから使用する

⑥教育訓練等

- ・衛生対策は作業に携わる全ての者が漏れなく毎日欠かさず統一したやり方で実施することが重要
- ・消毒法や作業手順について図やマニュアルを作成し、定期的な教育や訓練を実施することで、全員が同じルールで作業できるようにする
- ・消毒の記録簿をつけるなどして、やりもらしがないようにする

⑦適切な豚熱ワクチン接種について

重要!

- ・母豚からの移行抗体消失時期を踏まえた適切な時期による接種が必要
- ・免疫付与状況確認検査で陽性率が低い場合、原因を考察する必要がある。その場合、その豚が何回接種しているのか、何日齢で接種したのか、接種してから何日経過しているかが重要な情報になるため、豚毎（繁殖豚）、豚群毎（肥育豚）の接種記録を残しておく

重要!

⑧野生いのししの陽性確認を踏まえた農場侵入リスクの認識

- ・農場近傍で陽性いのししが確認されていないこと、農場周辺でいのししを見かけたことがないことから、発生農場側の防疫意識が必ずしも十分ではない事例があった
- ・先月には本巢市において陽性いのししが2頭確認されており、多くの農場が10km圏内に入っています。また、いのしし以外の野生動物、山に入った人・車が持ち運ぶ危険もあります。農場の外は汚染されていることを意識し、消毒等の徹底をこころがけてください。

ご不明な点がございましたら以下までお問い合わせください。

中央家畜保健衛生所：電話番号058-201-0530